資治通鑑　第 132 巻　　　令和 3 年 10 月 2 日

【宋紀十四】　起強圉協洽，盡上章閹茂，凡四年。
■南宋、●北魏、続国訳漢文大成経子史部第 8 巻 072p

太宗明皇帝中泰始三年（丁未，公元４６７年）

【淮北の四州など魏に奪われる】

■［張永軍に凍死者続出］春，正月，張永等は城を棄てて夜遁る。天の大雪に會い，泗水（江蘇省徐海道銅山県、彭城より東南して呂県の南を過ぎる。泗水の上に石梁有り、呂梁という、現・徐州市銅山区の川）は冰合し，永等は船を棄てて歩走し，士卒の凍死者は太半，手足を斷つ者什に七八。尉元は其の前を邀え，薛安都は其の後に乗り，呂梁之東に於いて永等を大破し，死者は以て萬を數え，屍（続は尸）は枕して六十餘里，軍資器械を委棄すること勝げて計る可からず。永の足指は亦た墮ち，沈攸之と僅かに身を以て免れ，梁、南秦二州刺史の垣恭祖等は魏の虜する所と為る。上は之を聞き，蔡興宗を召し，敗書を以て之に示して，曰く、

「我は卿に愧ずること甚し！」

永は號を左將軍に降される。攸之は免官し，貞陽（漢に湞陽県あり、宋の泰始四年に貞陽改名、湖南省桂陽郡貞陽県、現・郴州市桂陽県）公を以て職を領し還りて淮陰に屯せしむ。是に由りて淮北の四州（青州・冀州・徐州・兗州）及び豫州の淮西之地（汝南・新蔡・譙・梁・陳・南頓・潁川・汝陰）を失う。(8-073p)

■［太宗は惜しくも北を失う］裴子野は論じて曰く、

「昔齊の桓（公）は葵丘に於いて矜り而して九國は叛し（公羊傳にあり），曹公は張松に禮せずして而して天下分かる（65 巻漢の獻帝建安 13 年にあり）。一たび失うこと毫釐，其の差は遠き矣。太宗之初め，威令の被る所，百里に滿たず，卒は離心有り，士は色を固める無し，而るに能く誠心を開き，款實を布して，恩に感じ德に服す，命を致し死を效さざる莫し，故に西は摧し北は蕩し，内に寓し(続は宇内)褰開す。既に而して六軍は捷を獻じ，方隅は手を束ねるや，天子は其の餘の威を賈（続による、寓は×）らんと欲し，師出でて名は無く，長淮以北は，倏忽（たちまち）として戎と為る（胡族の北魏に占領される)。惜しい乎！若し向（続は嚮）之虚懐を以て，驕らず伐たずすれば，則ち三叛（薛安都・畢衆敬・常珍奇）の奚ぞ而して起こると為る哉！高祖は蟣（しらみの卵）虱（しらみ）は冑を介して生まれ，疆（境）場を經啟す。後之子孫は，日々に百里を蹙（近づく、縮む）す。播獲堂構（種を撒いて堂を構える、父祖の偉業を継承するの難きをいう、書経の大誥にあり）は，豈に易しと云わん哉！」

●［魏の尉元の提案］魏の尉元は彭城の兵荒之後にて，公私は困竭するを以て，冀、相、濟、兗四州の粟を發し，張永の棄つる所の船九百艘を取り，清（清水）に沿いて運載し，以て新民（新符の徐州の民）を賑わさんと請う。魏朝は之に從う。

●［魏の王道符の反乱］魏の東平王の（拓跋）道符は長安に於いて反し，副將の駙馬都尉の萬古真等を殺す。丙午（２４日），司空の和其奴等は殿中の兵を將いて之を討つ。丁未（２５日），道符の司馬の段太陽は道符を攻め，之を斬る。安西將軍の陸真を以て長安の鎮將と為し以て之を撫でる。道符は，翰（拓跋燾の子の東平王、126 巻正平の宋愛の変の禍に死す）之子也。

●閏月，魏は頓丘王の李峻を以て太宰と為す。

●沈文秀、崔道固は（青州、冀州の）土人の攻める所と為り，遣使して魏に降を乞い，且つ兵を請いて自ら救

う。

●<u>［魏の西河公石は懸瓠攻略戦］</u>二月，魏の**西河公石**は懸瓠より兵を引いて汝陰（河南省汝陽道新蔡県、現・駐馬店市新蔡県）太守の**張超**を攻め，克たず。退いて陳項（もと二邑、陳郡は項に治す、開封道項城県、現・周口市項城市）に屯して，長社（開封道長葛県、現・許昌市長葛市の東）に還り，秋を待ちて之を撃たんと議す。**鄭羲**は曰く、

「**張超**の蟻聚（烏合の衆）は命を窮め，糧食は已に盡き，降らずして當に走らんとす，足を翹てて而して待つ可き也。今之を棄てて遠く去れば，**超**は修城し浚隍し，薪を積み穀を儲え，更に來るとも圖り難きを恐るる矣。」

石は從わず，遂に長社に還る。

■<u>［沈文秀の動き］</u>初め，尋陽の既に平らぐや，**帝**は**沈文秀**の弟の**文炳**を遣わして詔書を以て**文秀**を諭さしめ，又た輔國將軍の**劉懷珍**を遣わして馬歩三千人を將して**文炳**と偕な行かしむ。未だ至らずして，**張永**等の敗退に値い，**懷珍**は還りて山陽に鎮す。(8-074p)**文秀**は青州刺史の**明僧暠**（前年前巻に兵を起す）を攻め，**帝**は**懷珍**をして龍驤將軍の**王廣之**を帥いて五百騎、歩卒二千人を將して海に浮かびて之を救わしむ，東海に至れば，**僧暠**は已に退きて東萊を保つ。**懷珍**は進みて朐城（江蘇省徐海道東海県、現・連雲港市東海県）に據り，衆心は兇懼し，且つ郁洲（江蘇省徐海道灌雲県の東北、現・連雲港市灌雲県）を保たんと欲す，**懷珍**は曰く、

「**文秀**は青州を以て索虜に歸さんと欲し，齊之士民を計るに，安んぞ肯えて左衽に甘心せん邪！今兵を揚げて直ちに前み，威德を宣佈すれば，諸城は書を飛ばして而して下す可し。奈何して此を守りて進まず，自ら沮撓を為さん乎！」

遂に進み，黔陬（山東省膠東道膠県、現・青島市膠州市）に至り，**文秀**の署する所の高密（黔陬・淳于・高密・夷安・營陵・昌安）、平昌（安丘・平昌・東武・琅邪・朱虚）二郡の太守は城を棄てて走る。**懷珍**は**文炳**を送致し，朝廷の意を達し，**文秀**は猶ほ降らず。百姓は**懷珍**の至るを聞き，皆な喜ぶ。**文秀**の署する所の長廣太守の**劉桃根**は數千人を將して不其城（山東省膠東道卽墨県の西南、青島市即墨区）に戍す。**懷珍**は洋水（=拒艾水は黔陬の西南の拒艾山より出る）に軍し，衆は、

「且く宜しく壁を堅くして隙を伺うべし」

を謂い，**懷珍**は曰く、

「今衆は少なく糧は竭き，軍は懸りて深く入り，正に當に精兵を以て速かに進めば，其の備えざるを掩う耳。」

乃ち**王廣之**を遣わして百騎を將いて不其城を襲わしめ，之を拔く。**文秀**は諸城の皆な敗れるを聞き，乃ち遣使して降を請う。**帝**は復た以て青州刺史と為す。**崔道固**は亦た降を請い，復た以て冀州刺史と為す。**懷珍**は引いて還る。（故に青州冀州は魏の有となる）

●魏の濟陰王の**小新成**は卒す。

■<u>［山東の諸城は魏に付かず］</u>**沈攸之**之彭城より還る也，長水校尉の**王玄載**を留めて下邳を守らしめ，積射將軍の**沈韶**をして宿豫を守らしめ，睢陵、淮陽は皆な兵を留めて之に戍せしむ。**玄載**は，**玄謨**之從弟也。時に東平太守の**申纂**は無鹽（山東省東臨道東平県、現・泰安市東平県）を守り，幽州刺史の**劉休賓**は梁鄒（山東省済南道鄒平県、現・浜州市鄒平県）を守り，并州刺史の清河の**房崇吉**は升城（山東省済南道長清県、現・済南市長清区）を守り，輔國將軍の清河の**張讜**は團城（山東省済寧道莒県、現・日照市莒県）を守り，及び兗州刺史の**王整**、蘭陵太守の**桓忻**、肥城（山東省済南道肥城県、現・泰安市肥城市）、糜溝（山東省済南道長清県、現・済南市長清区）、垣苗（山東省済南道長清県、現・済南市長清区）等の戍は皆な魏に附かず。**休賓**は，**乘民**（劉乘民は前年前巻にあり）之兄の子也。

【慕容白曜の大活躍】

●［征南大將軍慕容白曜の登場］魏は平東將軍の**長孫陵**等を遣わして兵を將いて青州に赴かしめ，征南大將軍の**慕容白曜**は騎五萬を將して之の繼援と為す。**白曜**は燕の**太祖**(慕容皝)之玄孫也。**白曜**は無鹽に至り，之を攻めんと欲す。將佐は皆な攻具の未だ備えずと以て為し，宜しく遽(にわか)に進まざるべからずと。左司馬の范陽の**酈范**は曰く、

「今輕軍は遠く襲い，深く敵の境に入り，豈に宜しく淹(えん)（とどまり）緩すべきや！(8-075p)且つ**申纂**は必ず我軍の來るに速かにして，攻圍に暇あらずと謂い，將に備えを為さず。今若し其の不意に出でれば，一鼓して而して克つ可し。」

白曜は曰く、

「司馬の策は是(ぜ)也。」

乃ち兵を引いて偽りて退く。**申纂**は復た備えを設けず，**白曜**は夜中に部分し，三月，甲寅（３日）旦に，城を攻め，食時（短時間）にて，之に克つ。**纂**は走り，追いて擒とし，之を殺す。**白曜**は無鹽の人を以て盡く軍賞と為さんと欲し，**酈范**は曰く、

「齊は，形勝之地なり，宜しく遠く經略を為すべし。今王師は始めて其の境に入り，人心は未だ洽(うるおさ)ず，連城は相い望み，鹹な拒み守る之志有り，苟しくも德信を以て之を懷かしむに非ざれば，未だ易く平らげざる也。」

白曜は曰く、

「善し！」

皆な之を免ず。

●［白曜の肥城攻城戦］**白曜**は將に肥城を攻めんとし，**酈范**は曰く、

「肥城は小なりと雖も，之を攻めて日を引き（長引く），之に勝てども軍勢を益す能わず，勝たざれば以て軍威を挫くに足らん。彼は無鹽之破れ，死傷は地を塗るを見て，敢えて懼れざるにあらず。若し飛書して告諭し，縱(たと)い使降らずとも，亦た當に逃散すべし。」

白曜は之に從う，肥城は果たして潰え，粟三十萬斛を獲る。**白曜**は**范**に謂って曰く、

「此の行にて卿を得る，三齊の定まるに足らざる也。」

遂に垣苗、麋溝の二戍を取る。一旬中に連ねて四城を抜き，威は齊土を震わす。

■丙子（２５日），尚書左僕射の**蔡興守**を以て郢州刺史と為す。

●［白曜の升城包囲］**房崇吉**は升城を守り，兵に勝(た)る者は七百人に過ぎず。**慕容白曜**は長圍を築き以て之を攻めること，二月より夏四月に至り，乃ち之に克つ。**白曜**は其の降らずを忿(いか)り，盡く城中の人を坑せんと欲し，參軍事の昌黎の**韓麒麟**は諫めて曰く、

「今勍(つよ)き敵は前に在り而して其の民を坑せば，此より東を以て，諸城の人々は自ら守りを為し，克つ可からざる也。師老い糧は盡きれば，外寇は之に乘じん，此くは危き道也。」

白曜は乃ち其の民を慰撫し，各々業に復さ使む。

●**崇吉**は身を脱して走る。**崇吉**の母の**傅氏**，**申纂**の妻の**賈氏**，濟州刺史の**盧度世**と中表の親有り，然るに已に疏遠なり。魏に虜す所と為るに及び，**度世**は奉事するに甚だ恭しく，贍(せん)（足す）給は優しく厚し。**度世**の閨門之內，和して而して禮有り。世に屯夷（多難平夷）有り，家には貧富有りと雖も，百口は怡怡(いい)（喜ぶ）

として，豐儉は之を同じくす。

●［沈文秀は信じられるか白曜迷う］**崔道固**は閉門して魏を拒む。**沈文秀**は遣使して迎えて魏に降り，兵の援接するを請う。**白曜**は兵を遣わして之に赴かしめんと欲す，**酈范**は曰く、

「**文秀**（呉興武康の人）の室の家の墳墓は皆な江南に在り，兵を擁して數萬，城は固く甲も堅し。強きときは則ち拒み戰い，屈すれば則ち遁げ去る。我が師は未だ其の城に逼らず，朝夕之急無く，何の畏れ忌む所ありてか，而して遽（にわか）に援軍を求めんや！且つ其の使者を觀るに，視を下して而して色は愧じ，語りて煩（うるさ）く而して志は怯（おびえ）るなり。此くは必ず詐りを挾んで以て我を誘うなり，從う可からず也。若かず先に歷城を取り，盤陽（盤水の陽にあり、山東省済南道淄川県、現・淄博市淄川区）に克ち，梁鄒（山東省濟南道鄒平県、現・浜州市鄒平市）を下し，樂陵（山東省済南道陽信県、現・浜州市陽信県）を平らげ，然る後に兵を按じて徐ろに進むば，其の服せざるを患わざる也。」

白曜は曰く、

「**崔道固**等の兵力は單弱，（8-076p）敢えて出でて戰わず。吾は通行して礙（さまた）げ無く，直に東陽に抵（てい）（突き当たり）すれば，彼は自ら必ず亡（ほろ）びんを知り，故に風を望み服するを求める，夫れ又た何をか疑うや！」

范は曰く、

「歷城の兵は多く糧は足る，朝夕に拔く可くに非ざるなり。**文秀**は坐して東陽（山東省膠東道益都県、現・濰坊市青州市）に據り，諸城の根本と為る。今多く兵を遣わさば則ち以て歷城を攻める無く，少しく兵を遣わさば則ち以て東陽を制するに足らず。若し進みて**文秀**の拒む所と為れば，退きて諸城の邀える所と為り，腹背に敵を受け，必ず全くす理は無し。願わくは更に審（つまびら）かに計り，賊の彀中（彀は弓を引き絞る、又は矢をつがいて弓を張り撃たんとすること、企みの計中に嵌る事）に墮ちる無かれ。」

白曜は乃ち止む。**文秀**は果たして降らず。

●［魏の尉元の上表］魏の**尉元**は上表して稱す、

「彭城は賊之要籓にして，重兵積粟に有らざれば，則ち固守する可からず。若し資儲既に廣くば，**劉彧**の師いる徒悉く起つと雖も，敢えて淮北之地を窺わず。」

又た言う、

「若し賊が彭城に向かえば，必ず清、泗に由りて宿豫を過ぎ，下邳を歷ん。青州に趨くにも，亦た下邳、沂水に由りて東安（山東省済寧道沂水県、臨沂市沂水県）を經ん。此の數者は，皆な賊が師を用いる要為（た）り。今若し先ず下邳を定め，宿豫を平らげ，淮陽に鎮し，東安に戍せば，則ち青、冀の諸鎮は攻めず而して克つ可し。若し四城服せざれば，青、冀は拔くと雖も，百姓は狼顧し，猶ほ僥倖之心を懷しまん。臣は愚にも以て為すに，宜しく青、冀之師を釋（と）き，先ず東南之地を定め，**劉彧**の北顧之意を斷ち，愚民の南望之心を絕つべし。夏水は盛んなりと雖も，津途の由る可く無く，冬路は通じると雖も，高城の固める可く無し。此くの如く，則ち淮北は自ら舉がり，暫く勞し永く逸せん。兵は神速を貴び，久しきは則ち變を生じ，若し天雨既に降れば，彼は或は水通に因り，糧を運び衆を益して，進取を為すを規（はか）り，恐らくは近淮之民は翻然として圖を改め，青、冀二州は猝（にわか）に未だ拔く可からざる也。」

■五月，壬戌（１２日），太子の詹事の**袁粲**を以て尚書右僕射と為す。

■［沈攸之の下邳救援、］**沈攸之**は自ら運米を送りて（淮蔭より）下邳に至る。魏人は清、泗の間に人を遣わして**攸之**を詐りて云わしむ、

「**薛安都**は降らんと欲し，軍の迎接するを求める。」
軍副の**吳喜**は千人を遣わして之に赴かしめんを請いて，**攸之**は許さず。既に而して來る者益々多く，**喜**は固く請いて已まず，**攸之**は乃ち來たる者を集めて之に告げて曰く、
「君ら諸人は既に誠心有り，若し能く**薛**徐州の子弟と倶に來たる者あれば，皆な即ち君に假すに本鄉縣を以てし，唯だ意の欲する所のみ。如し其れ爾からずんば，空しく往還を勞するを為す無かれ。」
是れより一たび去りて返さず。**攸之**は軍主の彭城の**陳顯達**をして千人を將いて助けて下邳に戍せしめて而して還る。
■**薛安都**の子の**伯令**は梁、雍之間に亡命し，黨は數千人を聚め，郡縣を攻め陷す。秋，七月，雍州刺史の巴陵の**王休若**は南陽太守の**張敬兒**等を遣わして擊ちて之を斬る。
■**上**は復た中領軍の**沈攸之**等を遣わして彭城を擊たしむ。**攸之**は清、泗が方に涸れ，糧運は繼かずと為るを以て，固く執りて以て不可と為す。使者は七へん返り，**上**は怒り，強く之を遣る。

■<u>［**蕭道成は豪桀俊才を收養し賓客盛ん**］</u>八月，壬寅（２３日），**(8-077p)攸之**を以て南兗州刺史を行い，兵を將いて北に出でしむ。行徐州事（去年徐州を鐘離に僑立）の**蕭道成**をして千人を將して淮陰に鎮せ使む。**道成**は豪（桀）俊（才）を收め養い，賓客は始めて盛んなり。

■<u>［**魏は彭城に入る、垣崇祖の活躍**］</u>魏之彭城に入る也（前巻前年にあり），**垣崇祖**は部曲を將いて朐山に奔り，之に據り，遣使して來降す。**蕭道成**は以て朐山戍主と為す。朐山（江蘇省徐海道東海県の山、現・連雲港市東海県）は海に濱して孤絕し，人情は未だ安からず，**崇祖**は舟を水側に浮かべて，急有れば則ち逃げて海に入らんと欲す。魏の東徐州刺史の**成固公**は圂城（山東省済寧道沂水県、現・臨沂市沂水県、銭大昕は團城とする現・日照市莒県）に戍し，**崇祖**の部將には罪有り，亡げて魏に降る。**成固公**は步騎二萬を遣わして朐山を襲い，城を去ること二十里。**崇祖**は方に出でて客を送り，城中の人は驚懼し，皆な船に下り去らんと欲す。**崇祖**は還り，腹心に謂って曰く、
「虜は宿謀有るに非ず，叛者之言を承けて而して來る耳，誑くは易き也。今百餘人の還るを得れば，事は必らず濟らん矣。但だ人情一たび駭けば，斂集する可からず，卿等は亟かに此を去ること一里の外にす可く，大きく呼びて而して來たりて云う、『艾塘（江蘇省徐海道贛榆県、現・連雲港市贛榆県）の義人（宋は魏を防ぐ淮北の民をこう呼ぶ）は已に虜を破るを得たり，須く戍軍は速かに往き，相い助けて之に逐うべし。』」
舟中の人は果たして喜び，爭いて岸に上がる。**崇祖**は引き入れ，城に據る。羸弱を遣わして入島し，人は兩に炬火を持ち，山に登りて鼓譟せしむ。魏の參騎（斥候）は軍備の甚だ盛んなると以て為し，乃ち退く。**上**は**崇祖**を以て北琅邪、蘭陵二郡の太守と為す。
■**垣榮祖**は亦た彭城より朐山に奔り，使いを奉じて（前年前巻に薛安都を説く）效かざるを以て，罪を畏れて敢て出でず，往きて淮陰の**蕭道成**に依る。**榮祖**は少きとき騎射を學ぶに，或るひとは之に謂って曰く、
「武事は畏る可し，何ぞ書を學ばざるや！」
榮祖は曰く、
「昔**曹公**の父子（曹操・曹丕）は馬に上りて槊を横たえ，下馬して談詠し，此れ天下に於いて，飲食に負かざる可し矣。君が輩は自ら全くする之伎無くして，何ぞ犬羊（防身の衝無し）に異ならん乎！」
劉善明の從弟の**僧副**は部曲二千人を將して，魏を避けて海島に居り，**道成**は亦た召いて而して之を撫す。

●**［魏の天宮寺大仏像］**魏は天宮寺に於いて大像を作る，高さは四十三尺，銅十萬斤，黄金六百斤を用いる。

●**［魏の尉元・孔伯恭と沈攸之の下邳戦］**魏の**尉元**は**孔伯恭**を遣わして歩騎一萬を帥いて**沈攸之**を拒ましめ，又た**攸之**の前に敗れて喪う所の士卒の瘃（凍傷）墮の膝行する者を以て悉く**攸之**に還し，以て其の氣を沮く。**上**は尋ぎて**攸之**等を遣わすを悔い，復た召して還ら使む。**攸之**は焦墟に至る，下邳を去ること五十餘里，**陳顯達**は兵を引いて**攸之**を迎え睢清口（清水、泗水の合流し東南に淮水に入る所、江蘇省徐海道邳県、現・徐州市邳州市）に至り，**伯恭**は撃ちて之を破る。**攸之**は兵を引いて退き，**伯恭**は之を追撃し，**攸之**は大敗し，(8-078p)龍驤將軍の**姜彦之**等は戰沒す。**攸之**の創は重く，**顯達**の營に入りて保つ。丁酉（１８日）夜，衆は潰え，**攸之**は輕騎にて南走し，軍資器械を委棄すること以て萬を計り，還りて淮陰に屯す。**尉元**は書を以て徐州刺史の**王玄載**を諭し（沈攸之は王玄載を留めて下邳に戍せしむ、よって徐州刺史を領せしむ），**玄載**は下邳を棄てて走り，魏は隴西の**辛紹先**を以て下邳太守と為す。**紹先**は苛察を尚ばず，務めて大綱を擧げ，生を治めて寇を禦ぎ而して已むと民に教える。是に由りて下邳は之を安ず。

●**［慕容白曜は瑕丘・歴城で崔道固と戦う］孔伯恭**は進みて宿豫（江蘇省徐海道宿遷県東南、現・宿遷市宿豫区）を攻め，宿豫の戍將の**魯僧遵**は亦た城を棄てて走る。魏將の**孔大恆**等は千騎を將して南に淮陽（現・淮安市淮陰区）を攻め，淮陽太守の**崔武仲**は城を焚いて走る。

●**慕容白曜**は進みて瑕丘（山東省済寧道滋陽県、現・済寧市兗州区）に屯す。**崔道固**之未だ降らざる也，綏邊將軍の**房法壽**は**王玄邈**の司馬と為り，屢々**道固**の軍を破る，歴城の人（崔道固は歴城に鎮し、軍はみな歴城出身）は之を畏る。**道固**の降るに及び，皆な兵を罷む。**道固**は**法壽**を畏れ百姓を扇動し，迫りて**法壽**を遣り建康に還ら使む。會々從弟の**崇吉**が升城より來たり，母妻が魏の獲る所と為るを以て，**法壽**に謀る。**法壽**は雅（初めから）より南行を欲せず，**道固**が之に迫るを怨む。時に**道固**は兼治中房の**靈賓**を遣わして清河、廣川二郡事を督し，磐陽（盤陽、山東省濟南道淄川県、現・淄博市淄川区、清河郡治所）に戍せしめ，**法壽**乃び**崇吉**と謀りて磐陽を襲い，之に據り，**慕容白曜**に降り，以て**崇吉**の母妻を贖う。**道固**は兵を遣わして之を攻め，**白曜**は瑕丘より將軍の**長孫觀**を遣わして磐陽を救わしめ，**道固**の兵は退く。**白曜**は冠軍將軍の**韓麒麟**を表し**法壽**と對して冀州刺史と為し，以て**法壽**の從弟の**靈民**、**思順**、**靈悦**、**伯憐**、**伯玉**、**叔玉**、**思安**、**幼安**等八人を皆な郡守と為す。（北冀州は宋の冀州、法壽に命ず。郡守とは廣州・平原・清河・樂陵・魏郡・河間・頓丘・高陽・渤海、みな僑郡）

●**［東陽の沈文秀は城を固守］白曜**は瑕丘より兵を引いて**崔道固**を歴城に攻め，平東將軍の**長孫陵**等を遣わして**沈文秀**を東陽に攻めしめる。**道固**は拒みて守り降らず，**白曜**は長圍を築いて之を守る。**陵**等は東陽に至り，**文秀**は降を請う。**陵**等は其の西郭に入り，士卒を縱ちて暴掠す。**文秀**は悔い怒り，閉城して拒み守り，**陵**等を撃ち，之を破る。**陵**等は退きて清西に屯し，屢々進みて城を攻め，克たず。

■癸卯（２４日），大赦す。

●**［魏主は國事を親政］**戊申（２９日），**魏主**の**李**夫人は子の**宏**（孝文帝）を生む。夫人は，**恵**（魏主の母の李貴人の兄弟、貴人は 128 巻宋の孝建三年に死を賜る）之女也。**馮太后**は自ら**宏**を撫養す。之の頃，**魏主**に政を還す。**魏主**は始めて國事を親らし，治を為すに勤め，賞罰は嚴明にして，清節を抜き，貪汚を黜け，是に於いて魏之牧守（地方長官）は始めて廉潔を以て著しく聞く者有り。

■太中大夫の**徐爰**（126 巻文帝元嘉 28 年に始まる）**は**，**太祖**の時より事を用い，素より**上**に禮せず。**上**は之を銜み，詔して其の奸（続は姦）佞之罪を數え，交州に徙す。

■［魏主は亡命の晉熙王の昶を愛重］冬，十月，辛巳（３日），詔して義陽王の**昶**を徙して晉熙王と為し，使員外郎の**李豐**をして金千兩を以て**昶**（魏に奔るは130巻元年）を魏に贖わしむ。魏人は許さず（弗），**昶**をして**上**に書を與えて，兄弟之儀を為さ使む。**上**は其の臣を稱せざるを責め，(8-079p)答えず。**魏主**は復た**昶**をして**上**に書を與え使め，**昶**（文帝の第九子、帝は第12子）は辭して曰く、
「臣は本實に**彧**の兄なり，未だ臣と為るを經ず。若し前書を改めれば，事は二敬（魏と宋の二つに敬する）と為る。苟も或いは改めざれば，彼の納れざる所なり。臣は敢えて詔を奉ぜず。」
乃ち止む。魏人は**昶**を愛重し，凡そ三たび公主に尚す。
■十一月，乙卯（８日），徐州を分けて東徐州を置き，輔國將軍の**張讜**（時に團城を守る）を以て刺史と為す。

■［梁鄒と汝陰の戦い］十二月，庚戌（３２日?），幽州刺史の**劉休賓**（既に兗州の境は魏に没し、梁鄒を守る）を以て兗州刺史と為す。**休賓**之妻は，**崔邪利**之女也，子の**文曄**を生み，**邪利**と皆な魏に沒す（125巻文帝元嘉27年）。**慕容白曜**は其の妻子を將いて梁鄒城下に至り之を示す。**休賓**は密かに主簿の**尹文達**を遣わして歷城に至り**白曜**を見，且つ其の妻子を視さしむ。**休賓**は降らんと欲し，而して兄の子の**聞慰**は可からず。**白曜**は人をして城下に至り呼んで曰は使む、
「**劉休賓**は數々人を遣わして來たり僕射に見えて降ると約し，何の故か期を違いて至らずや！」
是に由り城中の皆な之を知り，共に**休賓**を禁制して降るを得ざらしめ，魏兵は之を圍む。
●魏の西河公の**石**は復た（今年春に一度攻め勝たず）汝陰を攻め，汝陰は備え有り，功無くして而して還る。**常珍奇**は魏に降ると雖も，實は貳心を懷く。**劉勉**は復た書を以て之を招く。會々西河公の**石**は汝陰を攻め，**珍奇**は虛に乘りて懸瓠を燒劫し，上蔡、安成、平輿の三縣民を驅掠し，灌水（河南省汝陽道固始県、現・信陽市固始県の傍らを流れる川）に屯す。

太宗明皇帝中泰始四年（戊申，公元４６８年）

■春，正月，己未（１３日），**上**は南郊に祀し，大赦す。
●魏の汝陽司馬の**趙懷仁**は衆を帥いて武津（河南省開封道商水県の西北、現・周口市商水県）を寇し，豫州刺史の**劉勉**は龍驤將軍の**申元德**を遣わして之を擊破し，又た魏の于都公の**閼于拔**を汝陽台の東に斬り，運車千三百乘を獲る。魏は復た義陽を寇し，**勉**は司徒參軍の**孫台瓘**（曇瓘に作るべし）をして之を擊破せ使む。
■［賈元友の上書を劉勉は否定］淮西の民の**賈元友**は上書し，魏を伐ち陳、蔡（宋の豫州淮西は周の陳蔡）を取る之策を陳ず，**上**は其の書を以て**劉勉**に示す。**勉**は**上**に言う、
「**元友**は稱す『虜主は幼弱にして，內外は多難，天の亡すこと期有り』。臣は以為えらく虜は去冬より王土を蹈藉（かこつけて）し，數郡に盤據し，百姓は殘亡すと。今春以來，連城は圍み逼られ，國家は未だ能く境を復せず，何の虜を滅すに暇あらんか！**元友**の陳ずる所，率ね夸（驕り）誕狂謀は多く，皆な實に非ず。之を言うは甚だ易く，之を行うは甚だ難し。臣は竊かに元嘉以來を尋ねるに，傖（粗野な）荒遠人は，多くは國議に干り，負擔（担ぐ）して闕（宮殿の門）に歸し，皆な虜を討つを勸め，從來信じ納れ，皆な後悔を貽す。境上之人は，唯だ強弱を視る。王師は彼に至れば，必ず壺漿して塗に候う（献上の食を持参して様子を見る）。裁かに軍を退くを見て，(8-080p)便ち抄截蜂起す。此くの前後を見る所，明驗は一に非ざる也。」
上は乃ち止む。
●［魏の尉元は徐州刺史，彭城に鎮す］魏の**尉元**は遣使して東徐州刺史の**張讜**に說かしめ，**讜**は團城（山

東省済寧道沂水県、現・臨沂市沂水県 or 日照市莒県）を以て魏に降る。魏は中書侍郎の**高閭**を以て**讌**と對して東徐州刺史と為し，**李璨**を**畢衆敬**と對して東兗州刺史と為す。**元**は又た兗州（宋の僑郡、淮蔭に寄居治。蕭道成は淮蔭に鎮し、王整は徐州の境に鎮す、宋魏は兵を交える）刺史の**王整**、蘭陵太守の**桓忻**を說き，**整**、**忻**は皆な魏に降る。魏は**元**を以て開府儀同三司、都督徐、南、北兗（王整が降り兗州分割）三州諸軍事、徐州刺史と為し，彭城に鎮ぜしむ。**薛安都**、**畢衆敬**を召して入朝せしむ，平城に至り，魏は上客を以て之を待ち，群從は皆な侯に封じ，第宅を賜わり，資給は甚だ厚し。

●［歴城の崔道固降る］**慕容白曜**は歴城（山東省濟南道歴城県、現・済南市歴城区）を圍むこと年を經て，二月，庚寅（１４日），其の東郭を拔く。癸巳（１７日），**崔道固**は面縛して出で降る。**白曜**は**道固**之子の**景業**と**劉文曄**を遣わして同じく梁鄒に至らしめ，**劉休賓**は亦た出で降る。**白曜**は**道固**、**休賓**及び其の僚屬を平城に送る。

■辛丑（２５日），前龍驤將軍の**常珍奇**を以て都督司、北豫二州諸軍事、司州刺史と為す。魏の西河公の**石**は之を攻め，**珍奇**は單騎にして（淮水より）壽陽に奔る。

■乙巳（２９日），車騎大將軍、曲江の莊公の**王玄謨**は卒す。

【慕容白曜は沈文秀と東陽で直接対決】

●［慕容白曜は東陽を圍む］三月，魏の**慕容白曜**は進みて東陽を圍む。（歴城を得て始めて進出、酈范の策を採用）

■上は**崔道固**の兄の子の**僧祐**を以て輔國將軍と為し，兵數千を將して海道從り歴城を救わしめ，不其城に至り，歴城の已に沒すを聞き，遂に魏に降る。

■交州刺史の**劉牧**は卒す。州人の**李長仁**は**牧**の北來の部曲を殺し，州に據りて反し，刺史と自稱す。

■［州刺史の羊希と雑民の戦いの混乱］廣州刺史の**羊希**は晉康（広東省海道高要県、現・肇慶市高要区）太守の沛郡の**劉思道**をして俚（南方の雑民、君長なく山洞に暮らす）を伐た使む。**思道**は節度に違い，利を失い，**希**は遣わして之を收（続は攸、攸之を遣わすは×）ましむ。**思道**は自ら所領を帥いて州を攻め，**希**の兵は敗れて而して死す。龍驤將軍の**陳伯紹**は兵を將いて俚を伐ち，還り，**思道**を撃ち，擒にして之を斬る。**希**は，**玄保**（123 巻文帝元嘉 17 年にあり）之兄の子也。

■夏，四月，己卯（４日），復た郡縣の田租之半を減じる。

■東海王の**禕**を徙して廬江王と為し，山陽王の**休祐**を晉平王と為す。上は**廢帝**が**禕**を謂って驢王と為す（130 巻元年に見える、明帝は戯を持って王を封じる、君德を欠く）を持って，故に廬江を以て之を封ず。

■**劉勔**は魏兵を許昌にて敗る。

●魏は南郡公の**李惠**を以て征南大將軍、儀同三司、都督關右諸軍事、雍州刺史と為し，進爵して王と為す。(8-081p)

●五月，乙卯（１１日），**魏主**は崞山（山西省雁門道渾源県の西北、現・大同市渾源県）に於いて畋し，道（続は遂）は繁時（山西省雁門道繁時県、現・忻州市繁峙県）に如く，辛酉（１７日），宮に還る。

●六月，魏は昌黎王の**馮熙**を以て太傅と為す。**熙**は，**太后**之兄也。

■秋，七月，庚申（１７日），驍騎將軍の**蕭道成**を以て南兗州刺史（沈攸之に代らしむ、廣陵に治）と為す。

■八月，戊子（１５日），南康の相の**劉勃**を以て交州刺史と為す。

■［沈文靜は東青州刺史］上は**沈文秀**之弟の征北中兵參軍の**文靜**を以て輔國將軍と為し，高密等五郡（高密・平昌・長廣・東海・東莞）軍事を統べ，海道より東陽を救わしむ。不其城に至り，魏の斷つ所と為り，因り

て城を保ちて自ら固む。魏人は之を攻めて，克たず。辛卯（１８日），青州を分けて東青州を置き，**文靜**を以て刺史と為す。

●九月，辛亥（８日），魏は皇叔の**楨**を立てて南安王と為し，**長壽**を城陽王と為し，**太洛**を章武王と為し，**休**を安定王と為す。

■冬，十月，癸酉（１日）朔，日に之を食する有り。諸州の兵を發して北を伐つ。

■十一月，**李長仁**は遣使して降を請い，自ら行州事と貶す。之を許す。

●十二月，魏人は不其城を抜き，**沈文靜**を殺し，東陽の西郭に入る。

■義嘉之亂には，巫師は請いて修寧陵を發（あば）き，玄宮に戮して厭勝（呪して戦勝を祈る）を為す。是の歳，**昭太后**を改めて葬す。

■［明帝の側近の横暴］是より先（元嘉以前），中書侍郎、舍人は皆な名流を以て之と為す。**太祖**は始めて寒士の**秋當**を用い，**世祖**は猶ほ士庶を雑選し，**巣尚之**（士）、**戴法興**（庶）は皆な事を用いる。**上**の即位するに及び，盡く左右の細人（小人）を用い，游擊將軍の**阮佃夫**、中書通事舍人の**王道隆**、員外散騎侍郎の**楊運長**等は，並びて政事に參預し，權は人主に亞し，**巣**、**戴**の及ばざる所也。**佃夫**は尤も恣横し，人は順迕（ご）（入り乱れ）有れば，禍福は立ちどころに至る。大いに貨賂を納め，餉る所二百匹の絹を減ずるは，則ち書を報ぜず。園宅飲饌し，諸王を過ぎる。妓樂服飾は，宮掖も如かざる也。朝士の貴賤は，自ら結ばざる莫し。僕隸は皆な不次にて官に除せられ，捉車人（車を持す者）は虎賁中郎部に至り，馬士（馭者）は員外郎に至る。

太宗明皇帝中泰始五年（己酉，公元４６９年）

■春，正月，癸亥（２２日），**上**は籍田を耕し，大赦す。

■［沈文秀降伏で青、冀之地は盡く魏に入る］**沈文秀**は東陽を守り，魏人は之を圍むこと三年，外に救援無く，士卒は晝夜して戰を拒み，甲冑は蟣虱（きしつ）を生ずるも，離叛之志無し。乙丑（２４日），魏人は東陽を拔き，**文秀**は戎服を解き，衣冠を正し，持つ所の節を取り齋内に坐す。魏兵は交々至りて，問う、

「**沈文秀**は何（いずく）に在るや？」

文秀は厲聲して曰く、

「身は是にある！」(8-082p)

魏人は之を執り，其の衣を去り，縛して**慕容白曜**に送り，之を拜さ使め，**文秀**は曰く、

「各々は兩國の大臣，何をか之を拜する有るや！」

白曜は其の衣を還し，之が為に饌を設け，鎖して平城に送る。**魏主**は其の罪を數え而して之を宥し，待ちて下客と為し，惡衣、疏食を給す。既に而して其の屈せざるを重しとして，稍（やや）之を嘉んで禮し，拜して外都下大夫とす。是に於いて青、冀之地は盡く魏に入る矣。

●［慕容白曜を新占領地に封ずる］二月，己卯（９日），魏は**慕容白曜**を以て都督青、齊（東魏・東平原・東清河・廣川・済南・東大原）、東徐（東安・東莞）三州諸軍事、征南大將軍、開府儀同三司、青州刺史と為し，進爵して濟南王とす。**白曜**は撫御するに方有り，東人は之を安んず。

●［魏の占領地慰撫政策］魏は天安（=泰始２年）より以來，比歳に旱饑し，重ねて青、徐の兵を用いるを以て，山東之民は賦役に疲れる。**顯祖**は命じて民の貧富に因りて、三等と為して租を輸する之法は，等ごと

に三品と為す。上の三品は平城に輸し，中は它州に輸し，下は本州に輸せしむ。又た，魏の舊制は常賦之外は，雜調十五有り。是に至り悉く之を罷め，是に因りて民は稍贍（救う、足りる）給す。

■［太尉の廬江王の禕の擁立謀略をつぶす］河東の**柳欣慰**等は反を謀り，太尉の廬江王の**禕**を立てんと欲す。**禕**は自ら以えらく**帝**において兄為り，而るに**帝**及び諸兄弟は皆な之を輕んじ，遂に**欣慰**等と通謀し相い酬和す。征北咨議參軍の**杜幼文**は之を告げ，丙申（２６日），詔して**禕**を降して車騎將軍、開府儀同三司、南豫州刺史と為し，出でて宣城に鎮ぜしめ，**帝**は腹心の**楊運長**を遣わして兵を領して防衛せしむ。**欣慰**等は並びて伏して誅す。

■三月，魏人は汝陰を寇し，太守の**楊文萇**は擊ちて之を卻（続は却、拒絶）す。

●夏，四月，丙申（２７日），魏は大赦す。

●［魏は青、齊民平城移動、曇曜の僧祇戸設置提案］五月，魏は青、齊の民を平城に徙し，升城、歴城の民望を桑干に置き，平齊郡（山西省雁門道大同県、現・大同市）を立てて以て之に居らしむ。餘自は悉く奴婢と為し，分けて百官に賜る。魏の沙門統（後の僧録の如し）の**曇曜**は奏して、

「平齊の戸及び諸民は歳に谷六十斛を輸して、能く僧曹に入る者有れば，即ち僧祇戸と為し，粟は僧祇粟と為し，凶歳に遇えば，饑民に賑給すべし。」

又た請いて、

「民の重罪を犯す及び官奴は，以て佛圖戸を為し，以て諸寺に掃灑に供せん。」

魏主は並びて之を許す。是に於いて僧祇戸、粟及び寺戸は州鎮（魏は南方に刺史を置き、北方の夷夏雑居治には鎮を置く）に遍ねし矣。

●六月，魏は皇子の**宏**を立てて太子と為す。

■［廬江王の禕に自殺を追る］癸酉（５日），左衛將軍の**沈攸之**を以て郢州刺史と為す。**上**は又た有司をして、

「廬江王の**禕**は忿懟（恨み節）して怨言有り、窮治するを請う」

と奏さ令む。許さず。丁丑（９日），**禕**の官爵を免じ，大鴻臚を遣わして節を持し詔を奉じて**禕**を責めしめ，因りて逼りて自殺せ令め，(8-083p) 子の輔國將軍の**充明**を廢して新安に徙す。

■冬，十月，丁卯（１日）朔，日に之れ食有り。

●魏の頓丘王の**李峻**は卒す。

■十一月，丁未（１１日），魏は復た遣使して來たりて和親を修め，是れ自り信使は歳に通ず。閏月，戊子（２２日），輔師將軍（輔國将軍を改める）の**猛陽**を以て兗州刺史と為し，始めて淮陰に治す。

■［同族休仁の揚州刺史解任］十二月，戊戌（３日），司徒の建安王の**休仁**の揚州（刺史）を解く。**休仁**は年は**上**と鄰亞にして，素より相い友愛し，景和（前巻元年に見える）之世は，**上**は其の力を賴り以て禍いを脫す。泰始の初めに及び，四方に兵は起ち，**休仁**は親ら矢石に當たり，克く大功を成し，任は百揆を總べ，親しく寄りて甚だ隆し。是に由りて朝野は輻湊し，**上**は漸く悅ばず。**休仁**は其の旨を悟り，故に揚州を解くを表す。己未（２４日），桂陽王の**休范**を以て揚州刺史と為す。

■［三巴校尉を白帝に設置］荊州之巴東、建平，益州之巴西、梓潼郡を分けて，三巴校尉を置き，白帝に治す。是より先，三峽の蠻獠は、歳ごとに抄暴を為し，故に(三巴校尉)府を立てて以て之を鎮す。**上**は司徒

参軍の東莞の**孫謙**を以て巴東、建平二郡の太守と為す。**謙**は將に官に之かんとし，敕して千人を募り自ら隨わしむ，**謙**は曰く、
「亦た夷（続は蠻夷）は賓せざるは，蓋し之を待つこと節を失へば耳，何ぞ兵役を煩わして國費を以て為すや！」
固辭して受けず。郡に至り，恩信を開布し，蠻、獠は翕然として之を懷しみ，競いて金寶を餉る。**謙**は皆な慰め諭し，受けず。

■臨海の賊帥の**田流**は東海王を自稱し，海鹽を剽掠し，鄞（浙江省会稽道鄞県、現・寧波市鄞州区）令を殺し，東土は大震す。

太宗明皇帝中泰始六年（庚戌，公元４７０年）

■**春，正月**，乙亥（１０日），初めて間二年にして一たび南郊に祭り，間一年にして一たび明堂に祭ると制す。

■**二月**，壬寅（８日），司徒の**休仁**を以て太尉と為し，司徒を領せしむ。固辭す。（帝が喜ばないのを察知）

■癸丑（１９日），**江智淵**の孫女を納めて太子妃と為さしむ。甲寅（２０日），大赦す。百官をして皆な物を獻ぜ令む。始興太守の**孫奉伯**は琴、書を獻ずるに止め，**上**は大いに怒り，藥を封じて死を賜い，既に而して之を原す。

●魏は東郡王の**陸定國**を以て司空と為す。**定國**は，**麗**（宋愛の乱で嫡を立てる功あり、乙渾の乱で死す）之子也。

●**魏主**は征西大將軍の上黨王の**長孫觀**を遣わして吐谷渾を撃たしむ。

●**夏，四月**，辛丑（８日），魏は大赦す。(8-084p)

●戊申（１５日），魏の**長孫觀**と**葉**は渾王（続は吐谷渾王）の**拾寅**と曼頭山（青海の南）に於いて戰わんと欲し，**拾寅**は敗走し，別駕の**康盤龍**を遣わして入貢せしめ，**魏主**は之を囚う。

■癸亥（２０日），皇子の**燮**を立てて晉熙王と為し，晉熙王の**昶**の後を奉ぜしむ。

●**五月**，魏は皇弟の**長樂**を立てて建昌王と為す。

■**六月**，癸卯（１１日），江州刺史の**王景文**を以て尚書左僕射、揚州刺史と為し，尚書僕射の**袁粲**を以て右僕射と為す。

■ <u>［宮中裸婦人大宴会］</u>**上**は宮中で大宴をし，婦人を裸にして而して之を觀る，**王后**は<u>戶（続は無し）</u>扇を以て面を障る。**上**は怒りて曰く、
「外捨（外戚、皇后の家）寒を乞う（窮陋）や！今は共に樂しみを為す，何の獨り視ざるや！」
后は曰く、
「樂しみを為すの之事，其の方は自ら多し。豈に姑姊妹の集まり，而して婦人を裸にして以て笑いと為す有らんや！外捨之樂しみは，雅より此に異なる。」
上は大いに怒り，**后**を遣りて起たしむ。**后**の兄の**景文**は之を聞き，曰く、
「**后**の家に在るには劣弱にして，今段は遂に能く剛正なること此くの如きや！」

■ <u>［**蕭道成**は危機演出で難を免れる］</u>南兗州刺史の**蕭道成**は軍中（南斉書に、文帝 19 年道成を遣わして竟陵の蠻を討たしむ、即ち軍中に在ること久し）に在ること久しく，民間の或るひとは、
「**道成**に異相有り，當に天子と為るべし」

と言う。**上**は之を疑い，征（続は徴）して黄門侍郎、越騎校尉と為す。**道成**は懼れ，内に遷るを欲せず，而るに留まるを得るに計無し。冠軍（蕭道成は冠軍将軍）參軍の廣陵の**荀伯玉**は**道成**に勸めて數十騎を遣わして魏の境に入り，標榜を安置せしむ，魏は果たして游騎數百を遣わして境上を履行せしむ。**道成**は以て聞き，**上**は**道成**をして本任に復せ使む。

■秋，九月，**道成**に命じて遷して淮陰に鎮ぜしむ。（三年八月行徐州事で淮陰駐屯。沈攸之が北伐から帰り、南兗州刺史として廣陵駐屯、また淮陰に戻る）侍中、中領軍の**劉勔**を以て都督南徐、兗等五州諸軍事と為し，廣陵に鎮ぜしむ。

■戊寅（１７日），總明觀を立て，祭酒一人，儒、玄、文、史の學士各々十人を置く。（文帝元嘉 11 年に四学士を置き、總明觀祭酒を置き総ぜしむ）

●［柔然部真可汗の魏進攻を撃退］柔然の**部真可汗**は魏を侵し，**魏主**は郡臣を引いて之を議す。尚書右僕射の南平公の**目辰**は曰く、

「若し車駕が親征すれば，京師は危懼す，持重固守するに如かず。虜が軍を懸けて深く入れば，糧運は繼ぐ無く，久しからずして自ら退かん。將を遣わして追撃すれば，之を破るは必らずかな矣。」

給事中の**張白澤**は曰く、

「蠢（春の虫、うごめく）爾たる荒愚は，輕々しく王略（堺）を犯す，若し鑾輿（らんよ）（天子の馬車の鈴）親ら行けば，必ず麾（き）（軍を指図する旗）を望みて崩散し，豈に坐して而して敵を縱（ほしいまま）にす可くや！萬乘之尊きを以て，城に嬰（よ）りて自ら守れば，四夷を威服する所以に非ざる也。」

魏主は之に従う。**白澤**は，**袞**（道武帝の魏建国の功臣）之孫也。**魏主**は京兆王の**子推**等を使わして諸軍を督し西道に出でしめ，任城王の**雲**等をして諸軍を督して東道に出でしめ，汝陰王の**天賜**等をして諸軍を督して前鋒と為さしめ，隴西王の**源賀**等をして諸軍を督して後（続は継）と為さしめ，鎮西將軍の**呂羅漢**等をして留台の事を掌らしむ。(8-085p)諸將は女水（綏遠特別区域綏遠道武川県の川、現・フフホト市武川県）之濱に於いて**魏主**に會し，柔然と戰い，柔然は大敗す。勝ちに乘りて北に逐（お）い，斬首は五萬級，降者は萬餘人，猶ほ戎馬器械の獲ること勝に計る可からず。旬有九日，往き返り六千餘里。女水を改めて武川と曰う。司徒の東安王の**劉尼**は昏醉し，軍陳は整わずに坐して，免官せらる。壬申（８日?），還りて平城に至る。

●［魏の百官は祿給無し］是の時，魏の百官は祿を給せず，能く廉白を以て自立する者少なく。**魏主**は詔して、

「吏の監臨する所の羊一口、酒一斛を受ける者は，死。與える者は從坐を以て論ずべし。能く尚書已下の罪狀を糾告する者有れば，糾する所の官の輕重に隨いて之を授けん。」

張白澤は諫めて曰く、

「昔周之下士は，尚ほ耕やす代わり之祿有り。今の皇朝の貴臣は，勤に服して報無し。若し禮を受ける者をして身を刑し，之を糾する者をして職を代わら使めば，臣は奸（続は姦）人は望みを窺い，忠臣は節を懈（おこた）るを恐る，此くの如く而して事は簡に民の安きを求めるは，亦た難からず乎！請う律令の舊法に依るを，仍（よ）って祿を班（わか）ちて以て廉吏に酬いるべし。」

魏主は乃ち之が為に新法を罷む。

■冬，十月，辛卯（１日），詔して**世祖**の繼體，憲に陷（おちい）りて（法に触れる）遺（のこ）る無きを以て，皇子の**智隨**を以て**世祖**の子と為し，立てて武陵王と為す。

●［慕容白曜の誅殺］初め，魏の**乙渾**は專政し（前巻元年二年に見える），**慕容白曜**は頗る之に附く。**魏主**は追い

て以て憾（うらみ）と為し，遂に、
「**白曜**は謀反す」
と稱し，之を誅し，其の弟の**如意**に及ぶ。

●**［魏の李敷と李訢の体制］**初め，魏の南部尚書の**李敷**，儀曹尚書の**李訢**（りきん）は，少（わか）きとき相い親善し，中書侍郎の**盧度世**と皆な才能を以て**世祖**、**顯祖**の寵任する所と為り，機密に參豫し，詔命を出納す。其の後**訢**は出でて相州刺史と為り，貨賂を受納し，人の告げる所と為り，**敷**は之を掩蔽す。**顯祖**は之を聞き，檻車をして征（続は徵）し，驗を案じて罪に服し，死に當たる。是の時**敷**の弟の**弈**は**馮太后**の幸を得て，**帝**の意は已に之に疏んず。有司は中旨を以て**訢**に諷す、
「**敷の**兄弟の陰事を告げれば，以て免かるるを得る可し。」
訢は其の婿の**裴攸**に謂って曰く、
「吾は**敷**と族世は遠しと雖も，恩は同生に逾えて，今事に在るもの（有司）吾に勸めて此を為るさしめんとす，**吾**の情は忍ばざる所なり。毎（つね）に簪（かんざし）を引いて自ら刺し，帶を解いて自ら絞めんとすも，終に死するを得ず。且つ吾は安んぞ能く其の陰事を知るや！將に之を若何するや？」
攸は曰く、
「何為（いずれ）ぞ人の為に死する也！馮闡（ふうせん）という者有り，先に**敷**の敗る所と為り，其の家は深く之を怨む。今其の弟に詢（はか）れば，**敷**之陰事は得る可き也。」
訢は之に従う。又た趙郡の**范檦**は**敷**の兄弟の事狀を條列すること凡そ三十餘條。有司は以て聞き，**帝**は大いに怒り，**敷**の兄弟を誅す。**訢**は死を減ぜられるを得，鞭髡して役に配す。未だ幾くもなく，復た太倉尚書（魏の中世に殿中尚書の掌る倉庫を分けて置く）と為り，南部の事を攝す。**敷**は，**順**（魏の太武帝に事え、崔晧に誅殺される）之子也。(8-086p)

●魏の陽平王の**新成**は卒す。
■是の歲，龍驤將軍の義興の**周山圖**に命じて兵を將いて浹口に屯せしめ田流を討ち，之を平らぐ。
●**［于闐の援助要請］**柔然は于闐を攻め，于闐は使者の**素目伽**を遣わして表を奉じて魏に詣りて救いを求めしむ。**魏主**は公卿に命じて之を議し，**畢**は曰く、
「于闐は京師（魏都の代）を去ること幾萬里，蠕蠕は唯だ野掠に習い，城を攻める能わず。若し其の攻める可けば，尋（つ）ぎて已に亡せん矣。師を遣わさんと欲すと雖も，勢いは及ぶ所無し。」
魏主は議を以て使者に示し，使者も亦た然ると以て為す。乃ち之に詔して曰く、
「**朕**は應に仇（続は急）して諸軍に敕し以て汝の難を拯（すく）うべし。但だ汝を去ること遐阻（遙かに隔てる距離）なり，必ず當時之急を救う能わず，汝は宜しく之を知るべし。**朕**は今甲を練じ士を養い，一二歲間に，當に躬（みずか）ら猛將を帥い，汝が為に患を除かん。汝は其れ謹しみて警候を修め，以て大擧を待つべし。」

令和1年7月18日　　翻訳開始　　8753文字
令和1年7月31日　　翻訳終了　　14558文字
令和2年6月2日　　完全翻訳終了 15796文字
令和3年10月1日　　書下し　　17540文字